



「お節介、せんべい 津久見アピール」



①包装に津久見の方言をプリントした「つくみお節介せんべい」
②津久見市観光協会が商品化。新たな土産として売り出し、石灰石・セメントのまちをアピールする津久見市四浦の里の駅「つくみマルシェ」

【津久見】「忙しゅうてやおうねえなあ」。津久見市観光協会は、包装にユニークな津久見の方言をあしらった「つくみお節介（石灰石・せんべい）」の販売を始めた。市出身で東京都在住の主婦梅田早苗さん（37）のアイデアを商品化。新たな土産として売り出し、市の基幹産業である石灰石・セメントをアピールする。

2021年度に同協会が開催した、石灰石・セメントを生かした商品アイデアのコンテストで最優秀賞に選ばれた作品。市にゆかりのある人を対象に募集し、市内外から計197点が寄せられた。

当時、市内に住んでいた梅田さんは「石灰」と「おせつかい」をかけた駄洒落を思い付き、「津久見に興味を持ってもらえさうか」にできれば」と応募す

「石灰」生かしたコンテスト最優秀賞作品 包装に方言使い商品化

市観光協会

ることに。製品を若者男女に好まれるせんべいとして、イメージを固めていったという。個包装に「最近どげえな？」「せんべいでも食べてよこいよ」といったおせつかいな方言をプリント。商品のパッケージには鉱山の風景をデザインし、味は市

の名物料理「ひゅが井」風味に仕上げた。梅田さんは「早速、盆の帰省中に購入し、周りの人にお土産として配った。自分のアイデアが実現し、とてもうれしい」と喜んだ。せんべいは3枚入りで税込み450円。市内四浦の里の駅「つくみマルシェ」で販売している。市観光協会は、多くの手に取ってもらい、石灰石・セメントのまち津久見を広くPRしたい」と話した。

問い合わせは同協会（0972・82・9521）。（大海すみれ）

〔問①〕津久見市観光協会が開催したのは何を生かした商品アイデアのコンテストでしたか？

答え【 石灰石・セメント 】

〔問②〕「お節介せんべい」の味は市のある名物料理の風味ですが、その名物料理は何ですか？

答え【 ひゅが井 】

〔問③〕せんべいの包装にプリントされた下記の方言を標準語にするとどんな表現になりますか？

「せんべいでも食べてよこいよ」 答え【 例）せんべいでも食べて休みなさい 】

〔問④〕あなたが「お節介せんべい」の包装に付けたい言葉を大分の方言を使って考えましょう。

※自由記述